

岡山県立倉敷まきび支援学校 第3回 学校運営協議会 議事録

開催日：令和5年2月28日(火)
会場：大会議室

開会あいさつ（梶谷校長）

コロナ禍ではあるが、地域の理解もあり少しずついろいろな教育活動ができるようになってきた。来年度は、「できない」ではなく、「どのように対策をしながら、活動を行っていくか」に焦点を当てていきたいと考えている。

各種報告

学校自己評価について（小銭 / 主幹教諭）

スライド資料をもとに、アンケートの集計結果と分析について説明した。

【委員より / 専門性の向上について】

保護者の意見として「個に応じた指導をより進めてほしい」とあった。研修を重ね、実践での指導力を高めていくことが、保護者の安心につながると思う。できることは協力したいと考えている。

【委員より / 肯定的意見が伸びた理由について】

前年度比で10%以上も肯定的意見が伸びている項目がある。学校として、何か取組を行ったのか？

小銭 → 「特別な何か」を行ったわけではない。ただ、昨年度のこの場（学校運営協議会）で学校生活アンケートについて報告したところ、出席していた保護者が「知らなかった」と言っていた。学校としては「当たり前」と思ってやってきたことが、保護者に十分伝わっていなかったようだ。「この場で伝えたこと」「Facebookでの広報」等、伝える努力を行ったことが原因だと思う。

学校生活アンケートについて（山乗 / 高等部教頭）

資料をもとに報告を行った。

【委員より / いじめの認知について】

今年度は、「児童生徒が保護者へ相談をした」ことが主な認知のきっかけになっているようだが、表面に出てこないいじめが問題になっている。対策はどのようになっているか？

山乗 → 「日頃から教師がアンテナを高くして、児童生徒の小さな変化を見逃さないこと」「教師間の情報共有」そして「教師と児童生徒との良好な人間関係」が重要だと考えている。本校は教師の数も多いので、早期に兆候をつかむという面では強みになっているのではないかと。

R04年度卒業生の進路について（山乗 / 高等部教頭）

資料をもとに報告を行った。

* 質問事項等はなかった

R05 年度 学校経営計画について（梶谷校長）

現時点での、次年度の案を提示。

「子どもたちが、生涯にわたって、豊かに幸せな生活を送ることができる」ことを大切にしていきたい。本校は、地域と強く結びついていることが強みだと思う。地域で学び、地域で生活することができるよう、今後も連携を深めていきたい。

* 質問事項等はなかった

グループ協議

就労班

事業所参観日を行った。福祉系・就労系ともに盛況であった。外部の方々に学校のことを知ってもらうためには、こういった取組は必要だと思う。引き続き行っていきたい。副次的な効果として、会の終了後に、事業所間・企業間などでコミュニケーションをとっている姿が見られた。学校の取組がきっかけで、いろいろな輪が広がっている様子が見られた。

作業学習のブラッシュアップについては、次年度もより深めていきたい。高等部では、生活コースでも地域型実習を開始した。生徒をどんどん地域に出していきたいと考えている。

【委員より / 販売について】

運動会が分散開催ならば、運動会を行っていない学部は保護者を対象に販売会を行うこともできるのではないか。

環境・安全班

「あいさつ運動」「避難所体験」等、計画通りできた。

【避難所体験】

「避難所を体験する」ことも大切だが、「食事を自分達で作る（例：ポテトチップスを砕いて、湯を加えてスープを作る）」という体験を行っても良いかも知れない。「知っている」だけでは活用できないことも多いので、より深く体験できるようにしていきたい。

【交通】

学校周辺では、道路工事が行われている。これが完了したら、周辺の「交通の流れ」が変わってくるかもしれない。十分気をつけていきたい。

総論としては、「これまでの取組を充実させること」を次年度は考えていきたい。

福祉班

「まきび Cafe」「出張相談会」「福祉事業所参観日」の3本柱で、取り組んだ。

【まきび Cafe】

学期ごとに3回実施。1学期に保護者のニーズをしっかりとつかんで、2～3学期にテーマを決めて本格実施したい。校外からの参加者がいないので、外部へアナウンスしていくようにする。

【出張相談会】

福祉とつながっていない保護者をターゲットにしているが、なかなか足が向かないようだ。担任を通じて、保護者に声かけを行いたい。

【福祉事業所参観日】

今後も継続していきたい。

教育班

「学校生活アンケート」の報告から、「どこの学校でも児童生徒間の人間関係が課題である」ことを共通認識した。

特別支援学校の役割として「地域のセンター的機能」というものがある。公開講座・学校公開などを行っているが、そうでない「普通の校内研修」についても、近隣の学校に参加してもらえるようアナウンスを行っていく。

まとめ（発言順）

委員 A

教師の専門性向上のために、研究や研修について協力していきたい。

学生の教育実習・ボランティアもお世話になっている。

今後も続けていきたいと考えている。

委員 B

生徒の社会参加に役立ちたいと思っている。

コロナ対策についても緩和してくると思うので、「外向きの活動」もできるようになってくると思う。がんばってもらいたい。

委員 C

学校経営計画が印象に残った。

自身が関わる地域では、一昨年度は虐待報告件数が非常に多かった。昨年度・今年度と減少傾向にあるが、それでもまだ多い。学校経営計画で「人権」について触れているので、ぜひ人権意識を高くもって指導に当たってほしい。

被虐については、18～19歳が目立つ。卒業後、切れ目のない支援を目指していきたい。

委員 D

「生涯の豊かな生活を目指す」という言葉が印象に残った。自分達も同じ気持ちである。

センターとしては、まだまだ相談支援の役割が十分に理解されていないように感じている。保護者としてしっかりつながっていきたい。

学校とは、支援者同士「顔の見える関係性」を構築したいと考えている。

委員 E

「画一的な人間作り」をしないように気をつけてもらいたい。児童生徒の個性を大切に。子どもたちがもっている「思いやりの心」をしっかりと伸ばしてもらいたい。

委員 F

知小の児童が、学校の校庭に遊びに来ている。これを交流につなげていきたい。

また、研修についても、内容や時期により、可能などころはぜひ一緒に研修させてほしい。

委員 G

少しずつ交流（プランター配付・パン販売）ができるようになってきた。「顔が見えるつながり」を大切にしていきたい。互いに学んでいけたら、と思っている。

委員 H

この会に参加するようになったことで、地域とのつながりを強く感じるようになった。とてもありがたい。また、G7用のプランター等、真備町だけでなく倉敷市へと、活動の広がりを感じる取組もあり、うれしく思っている。

委員 I

とても地域に支えられている。本当にありがたいと感じた。

閉会あいさつ（小野副校長）

子どもたちは、本当に地域に支えられて伸びていると思っている。活動の中で、地域の方に認めてもらうことが、自己肯定感を育てることにつながっている。ありがとうございます。